

# 外部講師

教室に外部講師が入ることは、通常の教室とは違った雰囲気をつくりだすことで、よりいきいきとした学びの場が提供でき、またその講師の専門性や考え方・価値観の多様性を活かして、より深い学習が期待できる。ここでの「外部講師」とは、ある分野の知識や経験、技術の豊富な人や、子どもたちとは違った文化背景を持つ人々をいう。

また、子どもたちが外部講師を招く準備の時点から主体的に関わることで、子どもたちのより積極的な学習への参加が期待できる。なお、外部講師を招くばかりでなく、子どもたち自身がその外部講師のいる場所へ出かけていくことも同様の学習効果が期待できる。

## 1 活動例

■知識を引き出す（インタビューする）。

例

- 海外滞在経験者や在住外国人からその国の一般的な生活習慣を聞き出す。
- お年寄りから昔の日本の生活習慣を聞き出す。
- 国内外でボランティア活動をしている人からその活動内容を聞き出す。
- 在住外国人から日本での生活についての感想を聞き出す。
- 保育士などの職業についている人からその仕事内容を聞き出す。

■専門的技術（言語、料理、音楽・舞踊などの芸術）を学ぶ（体験する）。

例

- 在住外国人や海外滞在経験者から海外の言語、料理、伝統芸術を学ぶ。
- お年寄りから日本の昔の料理方法や伝統技術を学ぶ。
- 大工さんなど職業についている人からその技術を学ぶ。

■話し合う。

例

- 外国の環境問題に詳しい人と環境問題について話し合う。
- お年寄りと家族の価値観について話し合う。

■よりよいコミュニケーションを実践する。

例

- 在住外国人と会話（日本語、外国語）をする。
- 幼児やお年寄りと会話をする。
- 障害者と会話をする。

（注：ここでの「在住外国人」は、地域に暮らしている日本とは異なる文化背景をもつ人々を指す。）

## 2 招待のための準備

1. だれを招待するのか、なぜその人に来てもらうのかを考える。
2. どのように迎えたら、講師も自分たち自身もリラックスし、しかもお互いに学びのある雰囲気を作り出すことができるのかを考える。
3. 活動内容を考える。

①の場合【聞きたい質問の決定】

まず個人で、最もその外部講師に聞きたい質問を紙にいくつか書き、その後グループで見せ合い、グループとしての5つの質問を決める（「はい」「いいえ」で答えられる質問でなく、「どこで」「どうやって」など5W1Hの質問を考える）。

他のグループと質問を発表し合い、同じ質問がないように調整し、最終的

に10個くらいの質問を決める。

次に誰がどの順序で質問をし、だれがどのように記録するのかを決める。

②の場合 [学びたい技術の決定]

どのような技術を学びたいのか。どのようにしたらクラス全員がその技術を体験できるのか、その進行方法や形態について決定する。

③の場合 [話し合いたい内容の決定]

話し合いのテーマは何にするのか。どのようにしたら、クラス全員が関わるような話し合いができるのか、その進行方法や形態について決定する。

④の場合 [コミュニケーションの実践方法の決定]

効果的なコミュニケーションの方法はどのようなものがあるか。どのようにしたら、クラス全員が関わるようなコミュニケーションの実践ができるのか、その進行方法や形態について決定する。

4. 講師との事前打ち合わせをする。

電話、面談等によって、日時、場所、準備物、質問事項、ビデオ・録音の有無などについて講師と事前の打ち合わせをする。

### 3 実践

必ずしも、事前準備どおりに進まなくてもよい。その場に応じて柔軟に対応することが大切。

### 4 振り返り

実践後は、クラスで

- ・「わかったこと」「気がついたこと」「驚いたこと」などを話し合う。
- ・実践によって学んだことをまとめ、作文や、ポスターなどで表現する。
- ・外部講師を招待した活動自体について、うまくいった点、うまくいかなかった点などを話し合う。

### 在住外国人が講師の場合の留意点

■使用言語の確認

- ・日本語での活動が可能なのか、不可能な場合、通訳の手配はどうするのかを確認する。

■同行者の確認

- ・同行者が必要なのか、必要な場合は、だれと一緒にくるのかを確認する。

■固定観念の回避

- ・在住外国人の場合、そのインパクトが強い分、その外国人を通じて「○○人は△△だ」という固定観念につながる恐れが大いにあるという欠点がある。そのことを十分理解し、欠点をカバーするための十分な配慮を考える。

例

- 紹介する時は、「○○人の・・・さん」ではなく「××市在住の○○国出身の・・・さん」と言う。

■文化背景等の確認

- ・宗教上のタブーについて事前に調べておく。

### 教師側の留意点

■目的をはっきりさせる。

- ・学習単元のどの段階で、どんな外部講師を活用する形が有効なのか検討する。

■教師側の持っている固定観念を押し付けない。

- ・子どもたちおよび外部講師の持っている学習内容への自由な発想を妨げない。

■事前打ち合わせをしっかりとる。

- ・派遣を依頼したい個人や団体に最低でも3週間前には連絡をし、謝礼や交通手段など事務的事項を決める。
- ・授業の目的や流れについて講師と共有し、できれば講師と一緒に授業案を作ることが理想である。



テーマワーク (国際理解教育センター発行)